

1. 背景とねらい

桑園の土地生産性の向上には、単位面積から高い桑葉生産量と桑葉の収穫量にともなう産絹量の向上が必要である。そこで、近年命名登録された3倍体桑品種「しんけんもち」「あおばねずみ」と、既に栽培されている2倍体桑品種改良鼠返、剣持、ゆきしのぎを用い普通植桑、密植桑について飼料価値を繭質の面から明らかにする。

2. 技術内容

- (1) 3倍体桑品種しんけんもち、あおばねずみは、初秋・晩秋蚕期で食下量が少なく、繭層重が重く、繭層生産効率(繭層重/食下量×100)が高い。
- (2) 密植桑は、普通植桑より繭層生産効率が高い。
- (3) 3倍体桑品種の密植桑は、晩秋期再発枝の桑葉給与で消化率が高く、繭層生産効率も高い。
- (4) 3倍体桑品種は、10a当たり収桑量が多く、繭層生産量が多い。
- (5) ゆきしのぎの飼料効率は低いが、5齢4日目からしんけんもち(3倍体)に切り替えて給桑すると、飼育経過が5~8時間短縮し、繭重、繭層重が向上する。
- (6) 2倍体桑品種では、剣持が食下量、繭層重、繭層生産効率が高い。

3. 指導上の留意事項

- (1) 桑品種の能力を十分発揮できるように肥培管理を徹底する。
- (2) 食下量、消化量は5齢4~6日目に最大となるので飼育にあたっては、桑不足とならないよう留意する。
- (3) 密植桑は、晩秋期再発枝で、1日当たりの消化率が高く推移するので十分給桑する。
- (4) メッシュ気候図に表示のゆきしのぎの適応地域では、しんけんもちとの組み合わせにより繭質の向上を図ることが有利である。

4. 参考文献・資料

- (1) 寿正夫他2名 岩手県蚕業試験場要報第10号; 倍数性新桑品種「しんけんもち」「あおばねずみ」の飼料効率(1987)

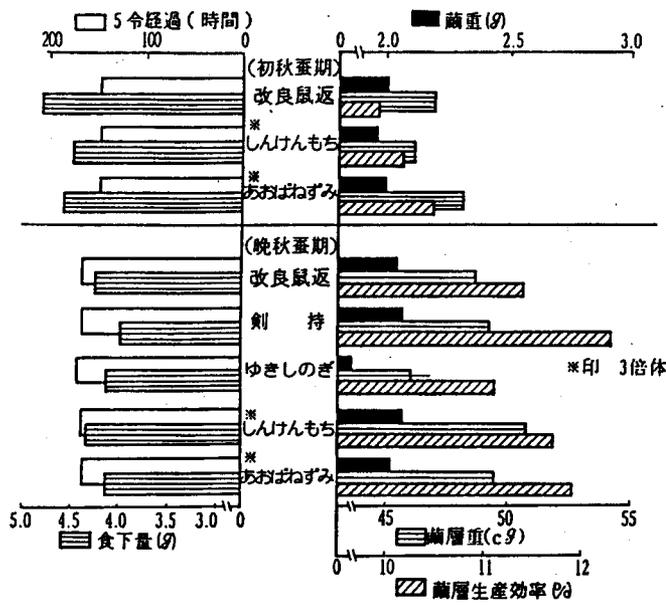


図1 普通倍數性桑品種の飼料価値(♂平均)

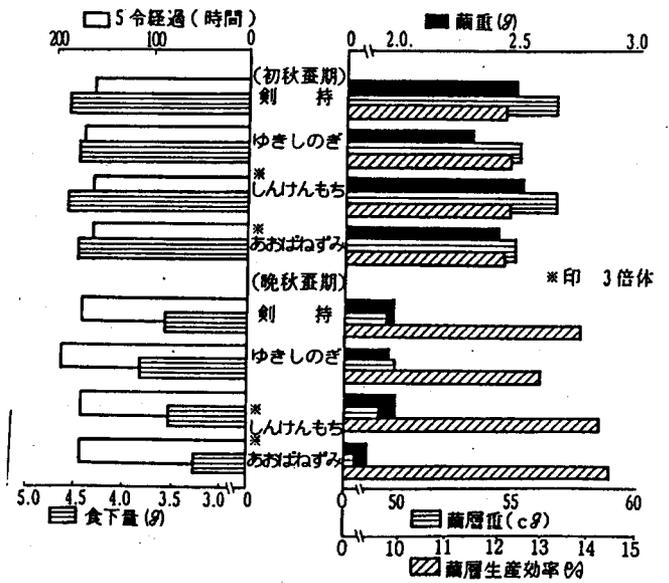


図2 密植倍數性桑品種の飼料価値(初秋:♀♂平均、晩秋:♂平均)

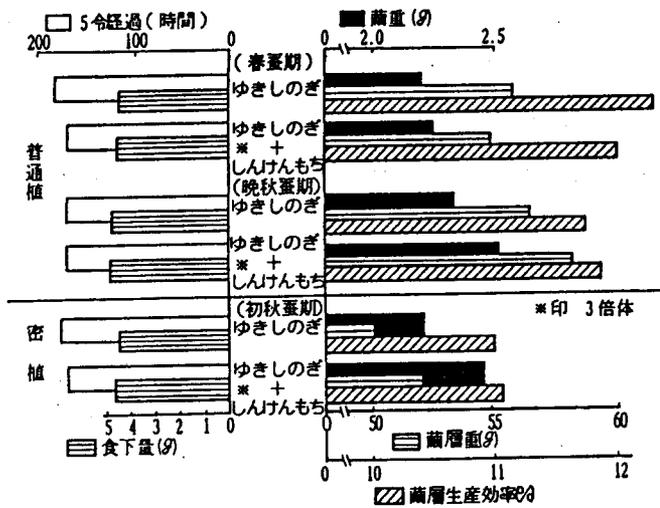


図3 倍數性桑品種組み合わせによる飼料価値(♀♂平均)

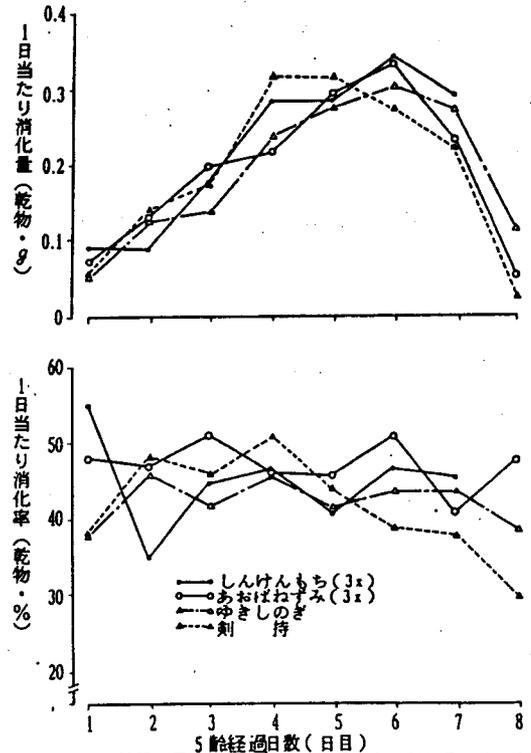


図4 密植桑の桑品種別における1日当たり消化量および消化率(晩秋蛋期、雄平均)